

再 評 価 調 査 書

I 事業概要						
事業名	農業農村整備事業（水環境整備事業）					
地区名	なかいすじにき 中井筋2期地区					
事業箇所	碧南市、刈谷市、安城市、高浜市					
事業のあらまし	<p>本地区は愛知県のほぼ中央に位置し、西三河地域において古くから地域住民に親しまれてきた農業用排水路である明治用水中井筋の管理用道路や親水施設等を整備するものである。</p> <p>明治用水中井筋は古来より農業の発展に貢献しているが、都市化の進展や混住化による生活雑排水の流入により水質汚濁が顕著になるなど、従前農業用水の有していた景観・生態系保全、親水機能などが低下している。</p> <p>一方で、以前は開水路形式であった用水路および排水路は、営農利用の他に洗い場や防火用水など、身近な水辺・地域の潤い空間として周辺住民に親しまれてきたが、水路の暗渠化に伴い水辺空間がなくなり、暗渠化された水路の上部は未利用地となっており、雑草の繁茂等により施設管理に支障をきたすばかりか、周辺環境の悪化をも招くとし地域住民は危惧している。</p> <p>このため、古くから身近な水辺空間として親しまれてきた水路の上部を自然環境や農村環境等に配慮して整備することで、地域交流活動の拠点を繋ぎ、地域住民の余暇活動の場や、潤い・安らぎ・憩いの空間として広く開放し、農業水利施設に対する地域住民の関心を一層深め、住民参加による施設の保全・管理活動や交流活動を促進し地域社会の活性化を図ることを目的として、2013年度から水環境整備事業を実施し、2025年度に完了する予定である。</p>					
事業目標	<p>【達成（主要）目標】</p> <p>農業水利施設及び農村環境の保全を図り、豊かで潤いのある生活環境を提供する。</p>					
計画変更の推移		事前評価時 (2012年度)	再評価時(1回目) (2017年度)	再評価時(2回目) (2022年度)	変更要因の分析	
	事業期間	2013～2018	2013～2023	2013～2025	関連事業との調整に伴う延長	
	事業費(億円)	7.4	8.8	9.4		
	経費内訳	工事費	6.8	8.1	8.7	労務資材費の増 (2017単価→ 2022単価)
		用補費	0.1	0.1	0.1	
		その他	0.5	0.6	0.6	
事業内容	親水景観保全施設 1式 ・せせらぎ水路 等 利用保全施設 1式 ・遊歩道 5,450m 等 地域防災施設 1式 ・消火栓	親水景観保全施設 1式 ・せせらぎ水路 等 利用保全施設 1式 ・遊歩道 5,450m 等 地域防災施設 1式 ・消火栓	親水景観保全施設 1式 ・せせらぎ水路 等 利用保全施設 1式 ・遊歩道 5,450m 等 地域防災施設 1式 ・消火栓			

II 評価

①事業の必要性の変化

1) 必要性の変化

【事前評価時の状況】

水路上部及び施設に付随する用地における自然環境や農村景観等に配慮した整備に対する地元の要請に応え、地域住民に広く開放することにより、住民参加による施設の保全管理活動や交流活動を促進し、地域社会の活性化を図る必要がある。

【再評価時の状況】

地域交流活動の拠点として自然環境や農村景観等に配慮した整備を実施し、将来にわたり農業水利施設や農村環境を保全する必要がある、整備の必要性は事業採択時とほぼ同程度と考えられる。

【変動要因の分析】

地区の状況にほとんど変化はなく、事業の必要性について変化はない。

判定

B

- A： 事業着手時に比べ必要性が増大している。
 - B： 事業着手時に比べ必要性にほとんど変化がない。
 - C： 事業着手時に比べ必要性が著しく低下している。
- ※事業着手時と比較することが適当ではないと判断される場合は、「事業着手時」を「前回評価時」に置き換えることができる。

【理由】

周辺環境は大きく変化しておらず、事業の必要性は事業着手時と同等であるため。

②事業の進捗状況及び見込み

1) 進捗状況

【事業計画及び実績】

		2013	～	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	合計
工種区分	調査設計	←	→									
	用地補償										↔	
	工事											
	・親水景観保全施設	←										→
	・利用保全施設	←										→
事業費(億円)	前回計画	2.1		5.3				1.4				8.8
	実績	2.1		3.8								5.9
	今回計画	2.1		3.8				3.5				9.4

【進捗率】

	これまでの計画に対する達成状況			全体進捗状況	
	計画【①】	実績【②】	達成状況(%)【②÷①】	計画【③】	進捗状況(%)【②÷③】
遊歩道(km)	5.5	4.2	76.4%	5.5	76.4%
事業費(億円)	8.8	5.9	67.0%	9.4	67.8%
工事費	8.1	5.5	90.5%	8.7	63.2%
用地補償費	0.1	0.0	0.0%	0.1	0.0%
その他	0.6	0.4	66.7%	0.6	66.7%

【施工済みの内容】

遊歩道 L=4150m

【事後評価に準ずるフォローアップ】

該当なし

2) 未着手 又は長期化の理由	本地区に近接する排水路、道路の工事との施工調整に伴い事業進捗が遅れたため、事業期間を延長した。	
3) 今後の事業進捗の見込み	【阻害要因】 特になし 【今後の見込み】 予算確保に努めながら事業進捗を図り、予定工期内の完了を目指す。	
判定	B	A：これまで事業は順調であり、引き続き計画通り確実な完成が見込まれる。 B：次のいずれか（該当する項目に「○印」を付ける） ・これまで事業は順調である。今後は多少の阻害要因が見込まれるものの、一定の期間等を要すれば、解決できる見通しがあり、ほぼ計画通りの完成が見込まれる。 <input checked="" type="radio"/> これまで事業が長期化していたが、事業期間を延長したことにより、今後は阻害要因がなく、ほぼ計画通りの完成が見込まれる。 ・これまでの事業長期化により、事業期間を延長した。今後も多少の阻害要因が見込まれるが、一定の期間等を要すれば、解決できる見通しがあり、ほぼ計画通りの完成が見込まれる。 C：阻害要因の解決が困難で、現時点では、事業進捗の目処がたたない。
		【理由】 今後、阻害要因もなく計画通りの完成が見込まれるため。
III 対応方針（案）		
継続	中止：上記①～③の評価で一つでもC判定があるもの。 継続：上記以外のもの。	
IV 事後評価実施の有無と主な評価内容		
■対象（事業完了後5年目） □対象外 【事業完了後5年を越えて実施する理由・対象外の理由】 — 【主な評価内容】 ・施設の維持管理状況 ・施設の利用状況		